

この校長室だよりも2年目になりますが、皆さんに伝えたいことを、月に一度のペースでこれからも送り続けたいと思います。ちなみに、昨年の4月号では大切にして欲しい言葉「つなぐ」について述べましたが、今年度は「自分事（じぶんごと・わがごと）」という言葉を中心にします。

SDGsを自分事に

環境問題や人権問題といった諸課題を、誰一人取り残さずに、世界のみんで解決していかうという取組が、皆さんも聞いたことがある「SDGs」（持続可能な開発目標）です。2015年に国連総会で採択され、2030年を区切りに目標が設定されましたが、その2030年まで残り8年となっているのが現在です。

17の目標の中で、「4 質の高い教育をみんなに」と「13 気候変動に具体的な対策を」に、私は最も関心があります。なぜなら、30年ほど教員を職業としていることや、次世代にこの地球をどのようにつなぐかを考え、取り組みたいからです。

皆さんはいかがですか。自分の日常において、取り組めることが例え小さく僅かな一歩であっても、何も考えずに、そして何もせずにいるよりも、絶対にいいですよ。取り組みがまだの人はこれから考え、すでに始めている人は今後も取組を続け、日々を大切に紡（つむ）いでいきましょう。

世界を自分事に

2022年2月末、ロシアがウクライナに軍事侵攻したニュースが、瞬く間に世界中を席卷しました。これを記している今もまだ、ウクライナの人々が沢山傷つき、亡くなり、住み慣れた町を追われ、苦しい日々を過ごされている報道に触れると心が痛みます。

言うまでもなく、戦争は決して許されることのない暴挙ですが、ロシアの人々に対する誹謗中傷が報じられると、やり場のない辛さを強く感じます。人類は何度も歴史の中で同じような経験をしているはずなのに、現代でもまた、同じ過ちを繰り返すのでしょうか。

常々伝えているように、今私たちにできることは、「正確な情報を手に入れ、いろいろな意見を吟味して、自分自身で考え判断し、その判断をもとに自ら行動すること」です。歴史から学び、私たちの日々を丁寧に生きることが、何より大切に思えます。移動手段や情報機器の発達によって世界が小さくなった現代では、私たち一人一人の行動が今まで以上に世界を動かしていると、私は信じています。だからこそ、他人事ではなく自分事として世界を捉えることを心がけたいと思います。